

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	北九州市役所			代表者名	武内 和久
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	DX推進課	連絡先電話番号	093-582-3557
担当者役職	係長	担当者氏名	加藤 睦美	連絡先E-mail	
住所	803-8501 福岡県北九州市小倉北区大門1-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名	北九州市DX人材育成プロジェクト		
概要	DX推進リーダー(上位層)を対象とした研修で、会津若松市における先進的なGISの活用事例を紹介いただき、北九州市でGISを活用したデータ活用を促進する。				
支援を求める分野	EBPM人材(DX推進のための機運の醸成) 人材(DXに関する知識習得・研修・育成)				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和6年10月25日	事前打合せ&講演(実地)	9時30分	17時30分	60
				活動時間(分)	420
2-2. 派遣場所	会場名	小倉北区役所	最寄駅	西小倉駅	
	所在地	福岡県北九州市小倉北区大手町1-1	最寄駅からの交通手段	徒歩15分	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	伊藤 文徳
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	講義では、GISの有用性はもちろんですが、有用性や成功事例だけでなく、DXを推進する自治体職員としての裏話、苦勞話などを織り交ぜてお話いただいたことで、受講生の共感が高まり、満足度の高い研修になったと思う。
アドバイザーへの要望事項	また機会があればお願いしたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	70人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	70			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的に記入下さい)	GISのEBPMへの活用推進が必要だが、業務で必要としている一部の職員を除いて、その存在すら知らない職員も多い。
支援により目指す成果(具体的に記入下さい)	研修の対象者は、DX推進リーダーの上位層にあたるゴールドメンバーの候補者たちである。GISは北九州市でも積極的に取り組んでいるが、今回の対象者の中には業務上GISを見たことも触ったこともないメンバーもありその有用性を知ることができる。また、GISを使っている対象者でも、先進自治体の使用例を見ることで活用方法のインスピレーションを得ることができる。また、当室職員との意見交換では、お互いの取組のブラッシュアップを図ることができる。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	9:30~9:50 政策監・井上部長・西原課長・須山課長と意見交換 (政策監室) 10:00~11:00 データ利活用ラインとの意見交換 (303会議室) 11:10~12:00 フロントヤード改革担当ラインとの意見交換 (303会議室) (昼休み) 13:30~16:00 GIS研修 (ゴールド研修) (503・504会議室) 16:00~16:50 生成AI担当ラインとの意見交換 (303会議室) 17:00~17:15 総務市民局にて自治会の活性化について意見交換
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	当室各ラインとの意見交換では、互いの自治体の取組の紹介やその悩み相談などを行い、それぞれ解決のためのヒントを得た。実務担当者同士が本音でし、規模が違う自治体の異なる取り組みを、思いも含めて共有することにより改善のポイントを見出し、モチベーションアップにもつながった。 午後の講義では、現場でのDXに実際に取組み始めたDX推進リーダーが対象で、GISの有用性はもちろん、DXを進める上でぶつかる壁 (テクニカルな部分だけではなく、上司、同僚、組織等を含め) をどう乗り越えてきたかの経験談なども、今後DXを進める上で大いに役立つと思われた。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 今回意見交換会で得たヒントを、北九州市のDX推進に生かす。研修受講者は、今回の講演を生かし、DX推進を担う各職場の人材として成長・活躍することができる。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	上記と同じ
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 「有意義・おおむね有意義」と答えた受講生が94%、「普通」が6%、「有意義でなかった・あまり有意義でなかった」は0%。「本研修でGISが情報共有に有効なツールであることがわかった」「実例や裏話を多く聞くことができ、非常に勉強になった」など、前向きなコメントが寄せられた。
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ①予算は確保済みであり、年度内に推進する DX人材育成プロジェクトはR5~R7の3年間の事業であり、来年度まで継続する。今回伊藤さんの講演が大変好評だったので、来年度もお願いすることを検討している。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	2,400名のDX推進リーダーの育成。市役所のDXで生み出された時間とマンパワーで、多様化する市民・地域や企業等のニーズや課題に迅速に対応する新しい行政のサービスモデルを生み出すことを目指している。

具体的にご記入下さい。
 支援を受けた事業が成果につながった要因(自治体側に内在していた成功要因等)

具体的にご記入下さい。
 支援を受けた事業が成果につながった要因(自治体側に内在していた成功要因等)

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可 https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可 掲載可

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子
 今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真 (JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

